

放送視聴票 第 4 回 (bijyutu202507 + bijyutu202508)

■ bijyutu202507 : 風景を描く

【視点】

風景画は写真のようにリアルである必要はなく、自分自身の感じたこと、見え方を大切にすることが基本です。私たちは風景を五感で感じており、風の音、光の暖かさ、空気の匂いなども、絵に込められる感情の一部です。写真では写らない感覚を、自分の手で表現してみることが風景画の魅力です。

【遠近法の工夫】

西洋では線遠近法、大小遠近法、空気遠近法などを使って奥行きを表現してきました。

東洋では中国の三遠法（高遠・深遠・平遠）や、雪舟のように異なる視点を一つの画面に共存させる技法が用いられました。

これらの技法は、空間や距離感、絵の広がり伝えるための工夫であり、絵の中に見る人を引き込む力を持っています。

【透視図法】

透視図法では、消失点に向かって線を引くことで立体感を出します。

1点透視・2点透視・3点透視があり、描く対象によって使い分けることで、よりリアルな空間表現が可能になります。

モネやコロドーの作品を参考に、自分なりの風景を立体的に描く工夫をしてみましょう。

■ bijyutu202508 : 建築と美術

【建築の美しさ】

建築は外観だけでなく、その中に入ってこそわかる美しさもあります。

光と影のバランス、空間の広がり、素材の肌ざわりなど、体験を通じて感じる美しさも重要です。

ル・コルビュジエのロンシャンの礼拝堂などは、その象徴的な例です。

【建築設計の歴史】

モダニズム建築では、機能性と合理性が重視されました。ル・コルビュジエ、フランク・ロイド・ライトなどが代表的な建築家です。

しかし環境問題が表面化した 1960 年代以降は、装飾性や歴史性を重視するポストモダン建築へと転換していきます。

時代や価値観により「美しさ」や「正しさ」が変わることを、建築を通じて考えることができます。

【震災と建築のあり方】

東日本大震災後、伊東豊雄は「本当に人にとって大切な建築とは何か」を考えるようになります。

コミュニティとつながり、自然と共に生きる建築が求められるようになりました。

建築にも正解はなく、人々の想いや社会背景によって姿を変えていくことが学びの本質です。